

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 6 号 (6 月 1 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体初戦 鶴南に競り勝つ

5 月 30 日 (日) 県総体 2 回戦が行われました。山東は、山形商業高校グラウンドにて、前日 29 日に一回戦で新北を 4 - 0 で一蹴した鶴南と対戦しました。鶴南 新北戦は、恐らく、敗れたチームの三年生は高校サッカー生活の引退を迫られる試合のはずで、そうした緊張感の中、鶴南が勝ち上がってきました。山東 鶴南戦も同じ状況であり、Y リーグの 1 部に所属し今大会シード校の一つである山東はその意地を見せたい気持ちはあるものの、簡単な試合にはならないことを覚悟して試合に臨みました。

鶴南はボランチの 1 枚がアンカー¹タイプ、もう 1 枚がクイックネスのあるドリブル・ボールキープから攻撃の起点となるタイプの選手であり、この二人を自由にさせないこと、そして新北戦で後半から出場しハットトリックを決めたモンテ庄内ジュニアユース出身の 1 年生をがっちり抑えること等を確認して、選手を送り出しました。

試合が始まると、山東のプレスに敵のボランチも FW も自由にプレーできず、鶴南サイドのピッチでの試合が続く。山東優勢。ただし、厳しいディフェンスで敵に自由にプレーさせないことはできても、自分たちがボールを落ち着かせながらゲームを支配することはできず、終始焦って攻める山東。押し込んでいる (敵 DF ラインの裏にスペースがない) 時間が長いので攻撃における緩急が特に重要となるのですが、基本的に劣勢を前提にしたチーム作り (「まずは守備から」という意識で、奪ったボールを素早く攻撃につなげるチーム作り) をしてきていることが災いしてか、常に速攻を狙おうとしてしまい、効率の悪い攻めが続く。攻めあぐねるとはこのこと。前半もダラダラと時間が過ぎていき、無得点のままハーフタイムを迎えることが濃厚となった前半 34 分、高い位置で (鶴南サイドのピッチで) 右から左にサイドチェンジして得たボールを、左サイドバック大久保がゴール方向に斜めにドリブル! 相手のマークが厳しい時には、(縦や横ではなく) 斜めに走りこんだり斜めにドリブルしたりすることが有効なのですが、それをやってくれました²。ドリブル後パスが 2、3 本つながり、最後は FW 藤盛が浮き球を右足でボレー。

¹ ディフェンスラインの前に (あまり動かずに) 位置取りし、守備を中心にしながら中盤を安定させるプレーヤーをそのように呼びます。船が停泊する際にアンカー (錨) を降ろして安定させるように、チームを安定させることが求められているでしょう。

² 斜めに動くと、守備者と守備者の間でどちらがマークするべきかの決定が遅れ、マークがずれやすくなるため。縦に動くと、その選手を誰がマークするかが、その時の守備者のポジショニングから比較的容易に判断できます。

浮かすまいとかぶせ気味に蹴ったボールにはアウト回転がかかり、GKから逃げるようにしてゴール右隅に決まる。GKの手をかすめました、回転がかかっている分、キャッチは難しかったでしょう。前半34分、山東先制。そしてハーフタイムへ。山東からすれば最高の時間帯に得点することができました。

得点直後のハーフタイムですので、選手の表情は明るい。まだ試合が終わったわけではないので、気を緩めるわけにはいきませんが、表情からは攻めあぐねての無得点という結果でなくて良かった～という本音が伝わってくる。あとは追加点を決めるだけだ、という心理状況で後半を迎える。すると後半開始直後、左サイドで得たCK。ファーに流れるボールを、平成20年度卒業の柏倉のような高さや強さを兼ね備え始めた2年CDF多田が折り返し、そのボールをキャプテン三澤が詰めて追加点。早い時間帯の追加点は敵の諦めを誘うと考えていたことから、願ったり叶ったりの展開に。

しかし！この1戦にかける気持ちの入ったプレーを見せる鶴南を前に、突き放すことができない。もちろんその一つの原因は、ラストパス・フィニッシュの精度を欠く山東の拙攻ですが、鶴南の気迫あるプレーが山東のミス誘ったことは否めず。「簡単には行かない、簡単には行かない」と何度も心の中で念じていましたが、まさに簡単には行かない。しかも！！ちょっと守備においてファールが多くなってきた悪い時間に、ペナルティエリア内で山東DFがハンド³してしまい、PK献上。しっかり決められ、2-1に。「やはり簡単には行かないな～」と顧問二人で話し合う。何よりも鶴南が攻撃において息を吹き返すことが、避けたかった事態。明らかに「やれる、もう一点行こうぜ」という雰囲気になっている鶴南イレブン。そこを追加点で突き放したい山東ですが、終始精度に欠き、得点ならず。守備でなんとか踏ん張って結局2-1の勝利。勝ちはずでしたが、押し込んでいる割には点数が伸びず、スカッとした勝ちを得ることができませんでした。

次戦ですが、相手は長井高校を9-0の圧勝で破った東海大山形。波に乗っているでしょう。ただ、接戦という経験が山東にとってプラスに働くかもしれません（そう思うことにします）。平成20年度の県総体準決勝の日大山形戦では、3試合連続延長戦を経験した日大山形に、結局山東は競り負けました。勝手ではありますが、苦しみながら勝たせてもらった鶴南さんの気持ちも借りながら、気合の入った準々決勝を戦いたいと思います。たくさんの方の保護者の皆様、保護者OBの皆様、OBの皆様から応援を頂戴しました。山東応援団からは、いつもながら心強い声援を頂きました。ありがとうございました。気持ちのこもった戦いをしますので、次戦も応援よろしくお願いたします。

6月4日（金）準々決勝 VS 東海大山形 14:00～ @天童第3（天然芝）

勝てば

6月5日（土）準決勝 VS 山形中央と山商の勝者 11:00～ @天童第2（人工芝）

勝てば

6月6日（日）決勝 VS 日大・羽黒・酒南・鶴工の勝者 11:00～ @同上

³ 5月30日に放映された日本代表とイングランド代表の試合における本田のハンドのような、訳の分からない（手を出す意味が分からない）反則ではありませんでしたが、避けられたと思われるハンド。次戦でハンドしないための勉強になったと思いたいです。